

Bell Friend

鈴鹿大学短期大学部 鈴友会会報 No. 8

令和5年3月1日発行



目次

○ご挨拶	2
○鈴大祭 3年ぶりの開催！	3
・ 大学祭を開催して	
・ 同窓生と在学生の交流会	
○特集 大学の今	4～5
・ 食物栄養学専攻 教育・研究活動 「みえジビエ研究」	
・ こども学専攻 教育・研究活動 「こども学フィールドワークⅠ・Ⅱ」	
○鈴友会活動	6～7
・ 令和4年度総会報告	
・ 令和2・3年度事業及び会計報告	
・ 新役員の紹介	
○恩師雑感・卒業生近況	8

ご挨拶



鈴友会 名誉会長
長澤 貴
(鈴鹿大学短期大学部 学長)

日頃から、本学に対して多大なご理解とお力添えを賜り、深く感謝申し上げます。さて、昨年度は久々に鈴友会総会を開催することができ、皆様と対面で交流させていただくことができたことを大変ありがたく思います。数年来続くコロナ禍により、人と人との繋がりが希薄になる傾向がある中、皆様とお会いできたことで、人と人との繋がりの大切さを改めて実感いたしました。皆様も、同窓生という学びを縁にした繋がりのありがたさを実感していらっしゃると思います。そんな中、鈴鹿大学短期大学部は、「生活コミュニケーション学科」としてコミュニケーションを謳うことにより、食と教育・保育を通じた人との繋がりの大切さを学びの核としています。食物栄養学専攻では、従来の栄養士養成に加え、「フードビジネスクリエーター証」という資格を新設し、食で起業する人、飲食店等で働く人の養成をはじめました。また、こども学専攻では、令和3年から、小学校教諭2種免許状取得のための課程を新設しました。コミュニケーション・人とのつながりの幅をより広くし、人材育成にあたっています。どうぞ、引き続き、ご助力、ご指導いただけますようお願いいたします。



鈴友会 会長
鎌田 美千代
(昭和56年度卒業・養護教諭)

鈴友会会員の皆様には、ますますお元気でお過ごしのことと存じます。いつも本会活動にご支援を賜り誠にありがとうございます。

さて、令和4年10月30日に4年ぶりに「鈴友会総会及び滋賀県支部総会」を開催いたしました。2年前はパンデミックにより総会が中止となり、今回も開催できるか不安でしたが、3年ぶりの大学祭が前日より実施されており、昨年3月に卒業された新会員の方々を始め、多くの卒業生の皆様、旧職員、現職員の先生方にご参加いただきました。会員の皆様のお顔を拝見しながら総会を開催できましたことは、準備を進めてきました役員にとっても、たいへん嬉しいことでした。

「大学・同窓会は、その人の人生の歴史の一部である」と、言われますが、会員の皆様にとって思い出していただける場であり続けられますように願いながら、先行きはまだまだ不透明な状況ではございますが、2年後に総会が開催できますことを期待しつつ、皆様のご健康とますますのご活躍をお祈りいたします。今後とも同窓会へのご協力をよろしくお願い申し上げます。



滋賀県支部長
伊藤 裕美
(昭和52年度卒業・養護教諭)

誰もが予想していなかった新型コロナウイルス感染症の影響を受け、人生の歩みを再構築せざるをえない時代になりました。鈴友会会員の皆様におかれましては、いかがお過ごしでしょうか。

さて、昨年10月末の総会に鈴鹿の地を訪れたところ、大学祭が行われており、各学科の出し物が開催されていて、後輩の皆様の笑顔と優しい対応に接しました。時代を超え同窓生として交流をもつことができました。

学生の皆様が、大学で得た知識・技術を生かし「より良く生きる力」を取得し、社会で活躍されることを願います。

また、滋賀県支部は、1979年(昭和54年)9月に発足しました。以来、沢山の卒業生が県内外各方面で、時代の流れに沿いつつ活躍中です。

2005年以来懸案となっている滋賀県支部総会を、本部の皆様の協力を得ながら滋賀で開催出来るよう計画中です。ぜひ、ご出席くださいますようお願いいたします。

鈴大祭 3年ぶりの開催！

新型コロナウイルスの影響で令和2年・3年と中止となっていた鈴大祭が令和4年10月29日30日に開催されました。そこで、大学祭実行委員長に鈴大祭を無事に開催出来たことについてコメントを頂きました。また、梅原学科長より同窓生と在学生の交流会開催の提案を受け、鈴大祭2日目の10月30日に交流会を行いました。

大学祭を開催して

大学祭実行委員長 宮田 紗綺

3年ぶりの合同大学祭「鈴大祭」を無事に開催することができました。開催するにあたってご協力いただきました皆様、ありがとうございました！

コロナ禍での開催は初の試みということもあり、わからないことや困り事に意見を出し合ったり、助言を受けたりしながら準備を進めました。

準備が進むにつれ、「いよいよだ」という思いと、「無事に開催してお客さんが来てくれるか」という思いがありました。そんな時、周りからの「大丈夫」が支えになりました。

迎えた当日は、予想を大きく上回る方々が足を運んでくださり、笑顔を直接見られたことが嬉しかったです。多くの仮装をした子どもたちとスタッフの姿を目にして、嬉しさと胸がいっぱいでした。また、地域の方々に掲示を依頼したポスターを見て来たという声も聞くことができました。

今年は「初」が多かった中で、「楽しかった」「良かった」という声をたくさん聞いたのは、協力していただいた方々のおかげです。外部出店の方々からも嬉しいお言葉をいただきました。学部・サークルの持ち味を活かした出店ができたことも良かったと思います。

今年の大学祭は良い「Re:Start」だったと思います。私自身は4年生ということで、最後に運営側で素敵な思い出とやりがいを感じました。来年は後輩たちが更に「楽しい」を届けてくれると信じて、バトンパスをしたいと思います。

改めて、本当にありがとうございました！



同窓生と在学生の交流会が開かれました

◆交流会を開催するにあたって

鈴鹿大学短期大学部 生活コミュニケーション学科長 梅原 頼子

この交流会は、同窓生と在学生の繋がる機会を作り、学生のうちから同窓会活動への理解を深めることで、卒業後は積極的に活動へ参加してほしいと思ったことから提案しました。また、同窓生には、自身の経験を在学生に還元することで、学生教育の一翼を担っていただき母校発展を支援していただければ嬉しいと思っています。

◆後輩に向けて体験談をお話して

鈴友会 副会長 永岡 宏行

(平成16年度卒業・食物栄養)

食物栄養学専攻の在学生から卒業後のために、学生のうちに身につけておくべきことについて聞きたいとの依頼がありましたので、少しお話させて頂きました。

私の体験から、まずはパソコン操作です。卒業後は社会人として会社など組織に所属しますが、いろいろな形で報告を行います。口頭ではなく必ず文書が必要になります。その都度に、文書作成、特にタイピングが遅いと、同じ作業をしても時間を浪費するばかりです。これは新人から若手・中堅・ベテランと年月が過ぎて、責任の重い仕事を任されるほど文書作成の量は増えていきます。必ず役に立つので練習してください。

栄養士業務では献立作成がありますが、食材の一つ当たりの重さを把握しておくことが大切です。ある野菜の場合一つ当たり、一切れ当たりの重量は何gになって、原価と栄養価は献立条件をクリアするのかなど、わからないままあてずっぽうに作ると後で大失敗します。

他にも体験談など話しましたが、紙面の都合でここまでにします。卒業後の活躍を期待しています。

◆交流会に参加した後輩（在学生）からの感想

- 社会人になってから役に立つ話を聞けてとても参考になりました。タイピングや電話の対応など普段使わないことに慣れていく必要があるなと思いました。
- 栄養士として食材の重さがわかるようにしておいた方がよいと聞いたので、今後の授業でしっかり意識していきたいと思いました。

食物栄養学専攻の教育・研究活動

鈴鹿大学短期大学部 食物栄養学専攻 主任 櫻井 秀樹

みえジビエ研究

食物栄養学専攻では、令和3年度からみえジビエ調査研究に取り組んでいます。全国的に多くのシカ、イノシシが、増えすぎた野生動物の個体数調整のため、有害鳥獣駆除事業により捕獲されています。捕獲されたシカ、イノシシの大半は食用に利用することなく、埋却等により廃棄されているという現状があります。このようなシカ肉、イノシシ肉を人の食用、またはペットフードなどに有効活用しようという動きが高まっています。

平成30年5月18日の「国産ジビエ認証制度」制定に先駆け、三重県では独自のみえジビエ登録制度により、ジビエ利用推進活動が始まりました。みえジビエとは、みえジビエハンターが、三重県内で捕獲した野生のシカ、イノシシであり、みえジビエフードシステム衛生・品質管理マニュアルに基づき、みえジビエ解体処理施設で、みえジビエ解体処理者が食用に処理した枝肉や精肉のことです。



食物栄養学専攻では、これまでに三重県農林水産部のジビエ担当部署であるフードイノベーション課やみえジビエ登録事業者から情報収集を行い、専攻内での勉強会、学生のみえジビエ、みえジビエの認知度、イメージ調査、みえジビエ（シカ肉）の栄養素分析等を行いました。

第1回 みえジビエ講演会・展示会 Poster

みえジビエ（ニホンジカ）の栄養成分
 ◎梅原穂子・福永峰子・乾陽子・木下麻衣・古田佳奈子・中川七海・西地洋子・櫻井秀樹
 鈴鹿大学短期大学部 生活コミュニケーション学科 食物栄養学専攻

【目的】 シカ肉の栄養成分については、日本食料品検査協会が2020年採り（以下、食品成分表）に4種が掲載されているが、シカ肉は地域資源として食肉に有効活用する取り組みが広がっている。シカ肉は、多くの研究によって脂質が少なく、たんぱく質や鉄を多く含む特徴が明らかになっている。しかし、三重県で捕獲されるシカ肉の栄養成分が同程度であることはわかっていない。そこで、三重県で捕獲されるシカ肉の栄養成分を明らかにし、活用の際にアピールできるポイントについて検討することとした。

【方法】 試料は、三重県亀山市においてくくり殺で捕獲されたシカのみを、捕獲3歳であり、衛生的に処理された後、冷凍保存されたロース肉を使用した。分析（捕獲）時期は、2021年12月、2022年8月である。栄養成分分析は、食品分析会社へ依頼した。検討項目は、分析試料の栄養成分を「みえジビエ」とし、食品成分表に掲載されている栄養成分を「にほんじか」とした。分析は、「みえジビエ」と「にほんじか」の関係について、独立したサンプルのt検定を行った。有意水準は5%とした。

【結果】 みえジビエ100gあたりの栄養成分およびにほんじかとの関係を表1に示す。一般成分では、水分が最も多く含まれていた。みえジビエとにほんじかは、栄養成分に有意差は認められなかった。みえジビエと他の畜肉の栄養成分を表2に示す。みえジビエの栄養成分は、他の畜肉と比較して、エネルギーおよび脂質において最も低い値を示した。一方、水分、炭水化物、食物繊維、灰分、鉄、ビタミンB₁₂において最も高い値を示した。とりわけ、鉄は、牛の1.7倍、豚の5.9倍、鶏の13.7倍であり、ビタミンB₁₂は、牛の1.9倍、豚の2.2倍、鶏の3.5倍であった。

表1 みえジビエの栄養成分およびにほんじかとの関係

栄養成分	みえジビエ (n=3)	にほんじか (n=3)	t値
水分	64.6	64.2	0.407
たんぱく質	20.1	20.5	0.986
脂質	2.1	2.1	0.986
炭水化物	0.5	0.5	0.986
食物繊維	0.1	0.1	0.986
灰分	0.1	0.1	0.986
鉄	17.1	9.5	0.001
ビタミンB ₁₂	1.9	1.0	0.001

表2 みえジビエと他の畜肉の栄養成分

栄養成分	みえジビエ	豚	牛	鶏
エネルギー	100	100	100	100
脂質	2.1	10.0	10.0	10.0
たんぱく質	20.1	18.0	18.0	18.0
水分	64.6	64.0	64.0	64.0
炭水化物	0.5	0.5	0.5	0.5
食物繊維	0.1	0.1	0.1	0.1
鉄	17.1	9.5	9.5	9.5
ビタミンB ₁₂	1.9	1.0	1.0	1.0

令和4年度大学祭では、「みえジビエ研究会」と称した企画展を開催し、これまでの調査結果の発表と、みえジビエハンターを招き講演会を実施しました。企画展には学生や一般の参加者と一緒に同窓会からも参加していただきました。講演の後のシカ肉の試食会は、おいしい、柔らかい、獣臭がなく食べやすいなどの感想をいただき、好評でした。



今後は、みえジビエの利用拡大のために、県内の学校給食への利用や一般家庭向けにレシピ集発表、食育や環境教育の題材となるように研究を展開していく予定です。会員の皆様も興味のある方はぜひ、ご連絡ください。

同窓生の皆さん、こんにちは。こども学専攻です。2年生が履修する「こども学フィールドワークⅠ・Ⅱ」の授業では、所属するゼミナールごとに地域の施設や保育園、認定こども園と関わりながら学修の成果を発表する取り組みを行っています。今回は、その一部を紹介させていただきます。

◆ 神谷ゼミナール

神谷ゼミナールでは、ICT教材作成の技能を学ぶ取り組みを長年行っています。ICT (Information and Communication Technology) の力を使って、読み聞かせの保育環境を変えることを学修のねらいとしています。学生が作ったICT教材「電子紙芝居」を使った読み聞かせを松阪市にある松阪仏教愛護園のご協力を得て2名の学生が10月7日に実践活動を行いました。電子紙芝居の特徴である、音(音楽)が鳴る、アニメーションでキャラクターなどが動くといった、通常の絵本や紙芝居とは違った動きを見せるICT教材の電子芝居を鑑賞することによって、こども達も動いたり音が鳴ったりを楽しんでくれました。



◆ みやざきゼミナール

みやざきゼミナールでは、松阪市にある三重県立こどもの城と協働で親子を対象としたイベントを学生自らが企画し、運営しています。今年度で5年目になります。

本年度は、11月6日に開催されました。ここでは、学生の感想を紹介させていただきます。

『お客様に楽しんでもらえるよう、当日に向けてゼミナールのメンバーが一丸となって取り組みを行いました。初めてのイベント企画ということもあり、ゼミメンバーの間でアイデアを出しながら試行錯誤の日々でした。「楽しんでいただきたい」という思いの

もと、リハーサルを重ねることで活動の内容はより良いものになっていき、準備とともにチームワークを深めることができました。全員で力を合わせて取り組んだイベント当日は、参加していただいた方々のたくさんの笑顔を見ることができ、やりがいと達成感を感じることができました。この経験で得た学びは、それぞれが進む将来への糧にしていきます。』



◆ 南谷ゼミナール

南谷ゼミナールでは、12月23日に、杜の街ゆたか園のクリスマス会で創作オペレッタ「あわてんぼうのサンタクロース」を発表しました。学生自らが、オリジナルのお話をつくり、その世界観を形にするためには何が必要かを考えながら準備を行いました。そして、どのようにすれば子どもに伝わるかを考えながら練習を重ねてきました。

当日は、本番ならではのハプニングもありましたが、子どもたちの笑顔で空気も和み、約80名の園児とかかわりながら楽しいひとときを過ごすことができました。総合表現(音楽・造形・身体)である創作オペレッタの活動は、4月から保育者となる学生にとって何物にも代えがたい貴重な経験となりました。

園の先生方からも「子どもたちが楽しんでいてよかったよ」とのお言葉をいただき、学生の励みとなりました。



鈴友会活動

令和4年度 総会報告

鈴友会 顧問 **福永 峰子** (昭和53年度卒業・食物栄養)

令和4年10月30日(日曜日)に、鈴友会総会および滋賀県支部総会を開催しました。

総会では、はじめに鈴友会名誉会長の長澤貴学長からご挨拶をいただきました。続いて鈴友会会長、滋賀県支部長の挨拶の後、議長を選出し議事に入りました。議事では、令和2年度・令和3年度の事業報告および会計報告、令和4年度・令和5年度の役員改選および事業計画、会則変更についての審議が行われました。審議の結果、全て承認されました。

県内外から参加していただいた卒業生は、新型コロナウイルス感染予防を意識しながらも恩師の先生や久しぶりに会う同級生との再会を懐かしみ、楽しいひとときを過ごすことができました。また、総会後には卒業生と在学生の交流会が開かれ、先輩から後輩へ社会人としての心得などアドバイスをいただきました。



長澤学長のご挨拶



鎌田会長のご挨拶



伊藤支部長の挨拶



議案審議の様子



新役員紹介

参加された卒業生のみなさんからメッセージをいただきましたので、その一部をご紹介します。

○卒業してから自宅へ戻り地元企業で働いています。地区のお付き合いがあり、なかなか出席できませんでしたが、今回卒業してから初めてこの地に来ました。貴重な時間をいただきありがとうございました。

○4年前、50周年記念の総会に参加させていただきました。今回も久しぶりに参加することができました。コロナウイルスのため、なかなか思うような活動ができないと思いますが、これからも活動を続けていただけたらと思います。

～ 総会に出席して ～

有竹 千鶴 (昭和61年度卒業・商経)

在学中に大変お世話になった、岩城正則先生と伊藤裕先生にご出席いただき、鈴友会の先生方や卒業生と和やかに話をされていました。岩城先生は、遠く関西方面からお越しくださいました。両先生方や、懐かしい先生方のお元気な様子に、「総会に出席し、お話し出来て嬉しかった」と、卒業生と喜びました。総会後に、食物栄養学専攻のジビエ講演会と研究発表を卒業生達と聴講し、三重で活躍する猟師から、狩猟についての現状や肉の高い品質を維持する苦労話など伺い、学生が調理した鹿肉の試食も出来て、とても有意義な時間を過ごせました。



令和2・3年度 事業及び会計報告

● 事業報告 (令和2年4月1日～令和4年3月31日)

<p>令和2年度 役員会：6/20. 10/31. 2/28 総会：コロナウィルス感染症予防対策のため中止</p> <p>令和3年度 役員会：10/2</p>	<p>*総会 (中止) ホームページの「れいゆうかいつうしんNo.7」に以下の活動を掲載し、承認を得たものとした ○平成30・31、令和元年度事業報告と会計報告 ○役員選出 ○令和2・3年度事業計画 (案)</p> <p>*役員会 ○卒業記念号発行</p>
---	--

● 会計報告書

令和2年度(令和2年4月1日～令和3年3月31日)

収入の部		支出の部	
前年度繰越金(普通預金) ^{※1}	1,458,431	印刷費	56,214
終身会費(R02年度卒業生)	235,000	通信費 (卒業式祝電・総会中止はがきなど)	92,969
利息(普通預金)	12	会議費 (公民館使用料3回)	1,050
		その他	2,640
		卒業記念品	24,000
		小計	176,873
		次年度繰越金 ^{※2}	1,516,570
合計	1,693,443	合計	1,693,443

※1終身会費(R01年度卒業生)365,000円含む
※2終身会費(R02年度卒業生)235,000円

令和3年度(令和3年4月1日～令和4年3月31日)

収入の部		支出の部	
前年度繰越金(普通預金) ^{※1}	1,516,570	印刷費	12,760
終身会費(R03年度卒業生)	275,000	通信費	1,040
利息(普通預金)	12	寄付金 (学業学園へ)	30,000
		会議費 (公民館使用料1回)	110
		消耗品費	460
		その他	1,760
		卒業記念品	26,500
		小計	72,630
		未払金 ^{※3}	△460
		次年度繰越金 ^{※2}	1,719,412
合計	1,791,582	合計	1,791,582

※1終身会費(R02年度卒業生)235,000円含む
※2終身会費(R03年度卒業生)275,000円
※3未払金(ラベルシール)460円

上記の通り、ご報告いたします。

令和4年8月26日
会計 大畑 陽子
古田 佳奈子

上記の関係書類を監査した結果、相違なく適正に処理されていたことを認めます。

令和4年8月26日
監事 梅原 頼子

新役員の紹介

本部役員

名誉会長	長澤 貴	(鈴鹿大学短期大学部 学長)
会長	鎌田 美千代	(昭和56年度卒業・養護教諭)
副会長	永岡 宏行	(平成16年度卒業・食物栄養)
書記	前澤 いすず	(平成11年度卒業・食物栄養)
	服部 映里	(平成18年度卒業・食物栄養)
会計	大畑 陽子	(平成05年度卒業・商経)
	古田 佳奈子	(平成30年度卒業・食物栄養学)
監事	梅原 頼子	(昭和59年度卒業・食物栄養)
顧問	有竹 千鶴	(昭和61年度卒業・商経)
	福永 峰子	(昭和53年度卒業・食物栄養)

滋賀県支部役員

支部長	伊藤 裕美	(昭和52年度卒業・養護教諭)
副支部長	植村 靖子	(昭和47年度卒業・食物栄養)



恩師雑感 -同窓会に参加して-

元こども学専攻 教授 泉 正幸



同窓会の日(2022, 10, 30)、秋晴れの好天に恵まれ、自宅から電車で行くことにした。近鉄千里駅から久しぶりに鈴鹿大学まで坂道を少々汗ばみながら歩いた。坂の上まで来ると大学の象徴的な屋根が見えてくる。少し贅沢なしゃれた鈴鹿大学校舎である。四角いビル型校舎建設が多い中、粋な風貌のある校舎が魅力的である。校内に入るとアーチ形のデザインを施した通路をはじめ風流な外灯、中庭の木が見通せる大きな透かし窓の工夫がされている。広い赤い外階段は中庭や周囲の校舎と調和し、街並の景観が一望に見下ろせ、丘陵地がうまく生かされた立地になっている。こじんまりではあるが校舎のたたずまいは安らぎをもたらしてくれ、思わずキャンパスを歩いてしまう。春には桜やつつじが咲き、地域の憩いの場ともなる。大学創設の先人たちの気概がどことなく伝わってくるような気持ちになる。

コロナ禍で中断されてきた同窓会が、教室の一角を使って久しぶりに再開され、懐かしい方々にお会いでき、嬉しかった。4月に新学長になられた長澤学長からは「最近の短大事情」について運営の厳しさとそのご尽力ぶりを説明いただいた。「同窓会総会」が終わってからの雑談会は、お互いの体調や健康管理をはじめ、和やかな雰囲気、懐かしく時間を過ごさせていただいた。人とのめぐり合い再会を大切にしていきたいと思っている。

卒業生の近況

安田 睦美 (平成 29 年度卒業・食物栄養学)

原 浩子 (平成 30 年度卒業・食物栄養学)



私たち二人は、長年の社会人経験後、50代で入学し、卒業後は栄養士として、地元滋賀県の東部にある日野町で勤務しています。

共通の仕事は、食育事業です。公立7園に出向き食育クッキングを実施しています。

コロナ禍前は、ガラス鍋でのご飯の炊飯、カレー、味噌汁、ピザを子どもたちの手で作る4回の実践的な食育を町内の保育所・こども園・幼稚園で5歳児に実施してきました。材料を切ったりさせるのは、ドキドキはらはらですが、自分たちの力を合わせて出来上がった料理を「今まで食べた中で一番おいしかった」と笑顔で教えてくれる子どもたちの笑顔は最高の贈り物です。

今は、年2回感染対策に工夫をしながらのクッキングに加えて、お箸の持ち方の指導、年3回食育だよりの発行など家庭でも食育を意識していただけるようにしています。事業後のアンケートでは、「クッキング後にお手伝いをしたがるようになった」、「料理に興味をもつようになった」などの声が寄せられ、子どもたちの体験の大切さを身近に感じられる良い職業に恵まれ幸せです。

これもきめ細やかに熱心にご指導いただいた先生方のおかげだと深く感謝しています。

訃報 元学校犬 すず 天国へ

令和5年1月初旬、元学校犬 すず が天国へと旅立ちました。享年14歳、もうすぐ15歳の誕生日を迎えるところだったそうです。すずは、平成22年度に設立された生活コミュニケーションコース(ペットコース)でドッグトレーニングを通してコンパニオンアニマルとのコミュニケーションを学ぶ授業や演習で平成30年3月まで活躍しました。いつもかわいい笑顔のすずは、学生たちや教職員に愛される存在でした。心よりご冥福をお祈りいたします。



令和4年9月撮影 山越先生が運営する犬の預かり施設「いろはな」にて

編集後記

この度は、Bell Friend No.8の発行にあたりご執筆いただきました皆様方に心よりお礼申し上げます。会員数も8,500名以上となりました。大学・会員同士の懸け橋となれるよう、鈴友会活動を通して皆様の応援の一助となれば幸いです。ホームページでは、同窓会関連のイベントなどたくさんの情報を掲載しています。クラス会報告、近況報告等も、下記アドレスから見るができますので、ぜひご覧ください。

* 鈴友会のホームページ * <https://www.suzuka.ac.jp/> (鈴鹿大学・鈴鹿大学短期大学部 HP 内)

※アドレスが変更になっています↑

Top→卒業生の方へ→同窓会→鈴友会